

第3学年国語科学習指導案

日 時 令和6年10月 2日(水)
第5校時 13:10～13:55
対 象 第3学年3組 31名
授業者 溝上 紀子
会 場 3年3組教室

1 単元名 すがたをかえる大豆

2 単元の目標

- ・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。
- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。
- ・幅広く辞書の親しみ、辞書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。

3 題材の評価規準

知識・技能	・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。 ・幅広く読書に親しみ、読書に必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。
思考・判断・表現	・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。
主体的に学習に取り組む態度	・目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しを持って筆者の説明の工夫を生かした文章を書こうとしている。

4 指導観

(1)題材観

関連する学習指導要領における領域別目標は以下の通りである。

(2)情報の扱い方に関する事項

○情報と情報の関係

ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解する。

イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使うこと。

B 書くこと

ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。

イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

C 読むこと

ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

(2)児童観

本学級の子どもたちは、1学期に「こまを楽しむ」で説明文について学習し、段落や「初め」「中」「終わり」を意識して学習をした。文章を書く時は構想メモを書き、順序を考え、段落を分けて書くようにしているが、時間の流れに沿って書くことが多く、どの順序で書いたら効果的か考えて書くことは少ない。また、つなぎ言葉については、どのようなつなぎ言葉があるかやつなぎ言葉の役割についての理解は、まだ不十分である。

授業では、自分の考えをしっかりとって授業に参加し、自分の考えと友達との考えの違いや良さに

気をつけて聞くことを大切に学習に取り組んでいる。相手の話を聞き、自分の考えと同じところやちがうところに気をつけて聞くことで、自分とちがう考えがわかり、考えが深まることがあることを実感している。しかし、人の話を聞いて、相手の話の内容が分からなくても聞き返さずにいる子もいるので、よくわからない時は聞き返すように指導している。また、自分の考えを発表する時に、根拠をはっきりさせて考えを言うことができない子もいるので、根拠のある発表の仕方について学習を深めているところである。さらに、友達と考えを伝え合う時には、同じ考えや似た考えにも自分の言葉で付け足していくことで、より高まりのある考えを表現できるように学習している。学習のふり返しでは、黒板やノート、教科書を見ながら、大事な言葉を使って自分の言葉で学習のふり返りが書けるように学習している。大事な言葉は何か考えてふり返しを書くことで、今日の授業で学んだことを意識できるようになってきている。

(3)教材観

本教材は、大豆やその加工食品について書かれたもので、児童にも身近なものである。ただ、大豆の加工食品は、見ただけでは原料が大豆とは分からないものも多く、児童にとっては新鮮な驚きをもたらすと考えられる。自分の食生活や日本の食文化を見つめ直すことにつながり、食育という観点からも貴重な題材である。

「すがたをかえる大豆」は、大豆をおいしく食べるための工夫を五つの例で説明している典型的な解説型の文章である。まずは、「初め」「中」「終わり」の全体の組み立てを読み取っていく。

「中」の段落は、並列の関係にあり、各段落の説明の中心になる文に着目することで、段落相互の関係を捉えさせたい。また、「いちばん分かりやすいのは」「さらに」などのつなぎ言葉を細かく読み取ることで、事例が提示される順番について考えて、形がわかるものから形がかわり気づきにくいものの順で説明されていることやどうしてそのように書いたのかについて考えていきたい。

各事例の段落の並び方や、事例ごとに写真と文章が対応していることなど、「すがたをかえる大豆」には、さまざまな点で、読者に内容を分かりやすく伝えるための説明の工夫が見られる。説明の工夫について考えをまとめ、自分が書く『すがたをかえる食べ物事典』を書く時に活用できるようにしたい。

5 年間指導計画における位置付け

第2学年 紙コップ花火の作り方

第2学年 おもちゃの作り方をせつめいしよう

第3学年 紋様／こまを楽しむ

第3学年 全体と中心

第3学年 ポスターを読もう

6 単元の指導計画と評価計画（全15時間）

	学習活動（○）と予想される児童の反応（・）	主な留意点（・）と評価（◇）
1	○大豆を使った食品には何があるか考える。 ・とうふです。 ・納豆です。 ○「すがたをかえる大豆」を通読して大体の内容を捉える。 ・大豆を使った食品はいろいろあるんだな。 ○大豆に手を加えるときの言葉「いる」「にる」のような言葉の意味や意味のわからない言葉を国語辞典で調べる。	・大豆を使った食品の実物や写真を見せて、大豆についてのイメージをもつことができるようにする。 ・大豆を使った食品を手がかりに、内容の大体を捉えることができるようにする。 ・意味のわからない言葉を調べ、内容の理解を深める。 ◇文章を通読して、大豆に手を加えるときの言葉や意味のわからない言葉を国語辞典で調べることができる。
2	○大豆以外にすがたをかえる食品はないか考える。 ・牛乳、米などがあるな。 ○「すがたをかえる食べ物事典を作ろう」という学習課題を考え、学習計画を立てる。 ・牛乳の食べ物事典を作りたいな。 ・「すがたをかえる大豆」の文を読み、説明の	・すがたをかえる食品は、身近な食品にたくさんあることに気づかせ、すがたをかえる食べ物事典を書いてみたいという意欲を高める。 ・学習課題「すがたをかえる食べ物事典を作ろう」を設定し、学習計画を立てる。 ・教師が提示した例の中から選んで自分の食

	仕方のポイントを見つけ、自分の食べ物事典に学習したことを生かしたいな。	食べ物事典の題材を決める。 ◇文章を通読して、おおまかな内容を捉え、学習課題を考えることができる。
3	○段落分けを確かめ、文章全体の組み立てを捉える。 ・「初め」「中」「終わり」に分かれている。 ○「初め」と「終わり」を読んで、内容を確認める。 ・「初め」には、大豆がいろいろな姿で食べ方の工夫がされてきた理由が書かれている。	・「初め」「中」「終わり」の役割について考える。 ・「問い」について考えることで、文章全体の話題を捉えて読み進めることができるようにする。
4	○大豆をおいしく食べる工夫と具体例を整理して、表にまとめる。 ・「中」には、大豆をおいしく食べる工夫が書いてある。 ・最初の文が中心文だ。	・大豆を加工するときに使われる言葉に注意しながら、各段落でどんな工夫が書いてあるかを捉えることができるようにする。 ・中心文が最初にあることを確認し、その分かりやすさに気づくようにする。 ・それぞれの段落に出てくる食品をまとめ、「初め」「中」「終わり」に分ける。 ◇段落の中心となる文を捉えることができる。
5	○「中」を読んで、分かりやすい説明の仕方のポイントについて考える。 ・説明の順番は、形がわかるものから気づきにくいものの順に書いてある。 ・つなぎ言葉は、「次に」「また」の方がわかりやすくていいと思う。	・事例を挙げる順番も文章の工夫であることを捉えることができるようにする。 ・つなぎ言葉の使い方の工夫を考えることができる。 ◇説明の順番やつなぎ言葉の使い方などの分かりやすい説明のしかたのポイントについて考えることができる。
6	○大事な部分が伝わるように読むためにはどうしたらよいか考える。 ・中心文や大事な言葉を強くはっきり読むと分かりやすいな。 ○写真の使い方について考える。 ○文章に合う写真を使うと分かりやすい。	・説明の中心文や大豆からできる食品を強くはっきり読むとわかりやすいことに気づくことができるようにする。 ◇内容が伝わるように工夫して音読することができる。 ・P 38「絵や写真を使ってせつめいする」を読んで、写真の使われ方を整理する。 ◇写真の役割について考えることができる。
7	○「すがたをかえる大豆」の説明の仕方のポイントを話し合っまとめる。 ・中心となる文を段落の最初に書いている。 ・説明する順番に気をつけている。 ・つなぎ言葉を工夫している。 ・写真を使うと分かりやすい。	・ここまで文章を読んで考えてきた説明の仕方のポイントを、グループで話し合いながらまとめる。 ◇説明の仕方のポイントについてまとめることができる。
8	○他の食べ物を扱った本の内容や説明の仕方のポイントについて感想を話す。 ・「すがたをかえる大豆」で学習した説明の仕方のポイントと同じだな。 ○単元の学習をふり返る。 ・説明の仕方のポイントが分かった。自分が食べ物事典を書くときに使いたいな。	・「すがたをかえる大豆」で使われていた説明の仕方のポイントと本で説明されていることを比べてみる。 ◇他の本を読んで、説明の仕方のポイントを見つけることができる。
9	○調べる題材について、本やインターネットで調べて図や表に整理する。 ・調べたことをグループで整理する。 ・図や表に整理すると分かりやすいな。	・調べる時は、カードを利用し必要なことをメモする。 ・調べたカードは、グループで話し合っ整理するようにする。 ◇必要になる事項と観点を理解し、取材することができる。

10	○「すがたをかえる大豆」の学習で学んだ説明の仕方のポイントを生かして、自分の食べ物事典の組み立てを考える。 ・説明する順番を考えて組み立てを考えよう。	・「初め」「中」「終わり」の構成を考え、「中」の部分の例の挙げ方について、段落の分け方や順番などを考えることができるようにする。 ・3つ以上の例を挙げて書くようにする。 ◇分かりやすく説明する文章の書き方をふまえ、「初め」「中」「終わり」の構成で組み立てを考えることができる。
11	○組み立てにそって下書きを書き、推敲する。 ・「中」のまとまりの例はもっと分かりやすく書くといいな。	・「すがたをかえる大豆」で学習した構成や接続語などを参考に書くようにする。 ◇適切に事例を挙げて、食べ物事典を書くことができる。
12	○グループの友だちと食べ物事典を読み合って、助言し合う。 ・説明の順番が分かりやすいな。	・友だちの食べ物事典を読んで良い所や直した方がよい所を助言し合う。 ◇分かりやすい説明の仕方のポイントを意識して、互いに助言をし合うことができる。
13	○友だちのアドバイスをいかしながら食べ物事典を清書する。 ・友だちのアドバイスをいかして、つなぎ言葉に気をつけて清書しよう。	・友だちのアドバイスをいかして清書するようにする。 ◇「中」で内容のまとまりごとに段落を分け、理由や事例を挙げて食べ物事典を書くことができる。
14	○いろいろな友だちと互いに読み合い、説明の仕方のポイントについて交流する。 ・〇〇さんは、説明が分かりやすくいいな。	・友だちの説明の良さについて気づいたことをプリントに書いて交流する。 ◇互いの書き方を比べ、上手に説明している人に気づくことができる。
15	○学習のふりかえりをする。 ・「すがたをかえる大豆」で学習した説明の仕方のポイントを自分の食べ物事典に生かすことができた。	・学習で学んだことを生かして自分の食べ物事典を書くことができたかふりかえりをする。 ◇学習で学んだ分かりやすい説明の仕方のポイントを生かして食べ物事典を書くことができたかふりかえることができる。

7 手立て

・学習計画を拡大掲示

自分たちで考えた学習計画を拡大掲示し、学習の流れがわかりやすいようにする。自分だけの『すがたをかえる食べ物事典』をつくるという目的を明確にして、意欲をつなげていけるようにする。

・文章全体の組み立てを拡大掲示

授業では、本時で学習する文章全体の組み立てを拡大掲示し、学習したことを記入することで、「初め」「中」「終わり」の段落構成や説明の工夫、つなぎ言葉がわかりやすいようにする。

・ふりかえりの工夫

今日の学習のふり返しでは、キーワード（本時の学習の大事な言葉）を使ってわかったことや友達への考えのいいところをノートに書くことができるように意識づけていく。キーワードは、ふり返しを書く前に子どもたちと確認するようにする。

・交流のしかたの工夫

ペアでの交流やグループ交流、自由交流など、必要に応じて交流をすることで、いろいろな友達の考えを聞き、自分の考えとの違いに気づくことができるようにする。自分の考えを整理したり、友だちに相談したりできることが気軽にできる環境を作り、すぐに相談できるようにしていきたい。

・深い学びや考えの伝え方の工夫

自分の考えと友だちの考えをくらべたり、考えをつないだりすることで、自分の考えを深めていくことができるようにする。そのために、自分が納得できるまで聞いたり、問い返したりすることを大切にできるようにする。また、自分の考えを表現しにくい子どもには、教師が注意して見取り、考えを発表することができるように意識して指名をするような支援をしていくようにする。

8 本時の指導（全15時間中の第5時）

（1）本時の目標

「中」の段落の内容を読み取り、説明の順番の工夫やつなぎ言葉の使い方の分かりやすい説明の仕方のポイントを考えることができる。

（2）本時の展開

学習活動と主な発問（○） 予想される児童の反応（・）	主な留意点や支援（・）と評価（◇）
1. 本時の課題を確かめる。 ○前の時間は、「中」をくわしく読み、どんなことが説明されているのか読み取りました。今日は、わかりやすい説明の仕方のポイントを見つけ、自分が食べ物事典を書く時に生かせるようにしましょう。 「中」を読んで、自分の食べ物事典に使えるわかりやすいせつめいのしかたのポイントを見つけよう。	・見つけた説明の仕方のポイントを自分の食べ物事典を書く時に生かすということで意欲を高めるようにする。 ・本時の課題を知り、学習への見通しを持って活動できるようにする。 ・つなぎ言葉のない「中」の部分を拡大コピーした紙を掲示し、児童が考えやすいようにし、児童の発表を記入していくようにする。
2. 自分が見つけたわかりやすい説明の仕方のポイントを発表し、その良さについて話し合う。 ○各グループで話し合いましょう。 ○説明の順番について各グループの考えを発表しましょう。 ・形がわかるものから形がわかりにくいものや小さな生物の力をかりているものの順に書いています。だんだん形が変わっていくのでわかりやすいです。 ○どうしてこの順番で説明したのでしょうか。③段落と⑤段落を入れ替えてもいいですか。 ・形がわかるものから説明していると思います。 ・形がわからないとうふの話になると、難しい感じがするので、入れ替えない方がよいと思います。 ○段落の始まりに順番を表す「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」が使われていますね。でも、順番を表すなら、「一つ目は」「二つ目は」でもいいのではないですか。 ○各グループで話し合う。 ・「一つ目は」「二つ目は」は並べていて、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」はだんだん変わっていく様子がわかるのでわかりやすいです。 ○各グループの考えを発表しましょう。 ・「一つ目は」「二つ目は」よりも、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」のほうがよいと思います。「いちばん分かりやすいもの」から、「次に」「また」「さらに」と、どんどんちがうものになっていくのがわかりやすいからです。	・グループで話し合いながら、「中」を読み、大豆をおいしく食べるための工夫が説明されている順番やつなぎ言葉の使い方などの説明の仕方のポイントについて考える。 ・つなぎ言葉のない「中」の部分を拡大コピーした紙に大事な言葉に赤線を引いていく。 ・理由を考えるときに、題名の「すがたをかえる」という言葉に着目し、説明の順番には形がわかるもの・身近なもの・加工が単純なものから、形がわからないもの・意外なもの・加工が複雑なものへと展開されていることに気づくことができるようにする。 ・作者の考えた順番の良さについて自分の言葉で表現することができるようにする。 ・教師が順序を変えたつなぎ言葉のない「中」の段落を掲示して、順番を考えるようにする。 ・つなぎ言葉のない「中」の部分を拡大コピーした紙の順序を変えて掲示して考えるようにする。 ・「一つ目は」「二つ目は」は並列で、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」は段階が上がって行くという、その違いや効果に気づくことができるようにする。 ・つなぎ言葉を変えることで、文のつながりがどうなるか実際にやってみることで、説明の工夫に気づくことができるようにする。 ・子どもたちが気づかない時は、教師が

		「一つ目は」「二つ目は」を使った例文を出してその違いや効果に気づくことができるようにする。 ・「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」のつなぎ言葉の効果について気づくことができるようにする。
	3. 今日の学習で自分の食べ物事典に生かせることや、本時のふり返りをノートに書く。 ○今日の学習で分かった説明の仕方のポイントや友達の考えのよさをふり返りに書きましょう。 ・説明の順番は、形がわかるものから形がわかりにくいものの順に書いていった方がわかりやすいことがわかりました。 ・○○さんの考えがわかりやすかったです。 4. 本時をふり返り、次時への見通しをもつ。 ○次の時間は、わかりやすく伝えるための工夫が他にないか考えてみましょう。	・振り返りを書く時のキーワードは何か、子供たちと確認をする。 ・本時のキーワードは、 ①説明の順番の工夫 ②つなぎ言葉の使い方 ③なるほどなと思ったこと などが考えられる。 ・本時の学習内容に沿ったふり返りを書くことができるようにする。 ◇説明の順番やつなぎ言葉の使い方などのわかりやすい説明のしかたのポイントについて考えることができたか。 (観察・発言・ワークシート)

(3) 本時の評価

- ・「中」の段落の内容を読み取り、説明の順番の工夫やつなぎ言葉の使い方のわかりやすい説明の仕方のポイントを考え、発言することができたか。
- ・自分の考えと友だちの考えをくらべたり、考えをつないだりすることで、自分の考えを深めることができたか。